（技術名）八重山地域においてパインアップル「沖農P19」は春植え体系に適さない							
（要約）八重山地域の「沖農P19」における露地栽培の春植え体系では、夏植え体系より良食味果実の割合が低く、小果腐敗病も発生しやすいため、高品質果実出荷には適さない。							
農業研究センター石垣支所				連絡先	0980-82-4067		
部会名	果樹	専門	栽培	対象	パインアップル	分類	普及
普及対象地域	八重山地域						

［背景・ねらい］

生食用パインアップル「沖農 P19」（ホワイトココ®）では、夏植え体系において、自然出蕾で結実する自然夏実の食味が良く、主要品種より小果腐敗病の発生率も低いため、八重山地域での普及が進んでいる。一方、八重山地域では、８月以降の旺盛な観光需要に応えるため、春植え体系で、人為的な花芽誘導処理（以下、「誘導」）により晩夏から晩秋にかけて果実を収穫する春植え－秋実体系も近年盛んに行われているが、「沖農 P19」では春植え体系における果実品質が明らかにされていない。そこで、本研究では、露地栽培の春植え体系において、定植翌年に自然出蕾した自然夏実および４～６月に誘導した秋実（以下、「誘導果」）で、良食味の基準値を全て満たす良食味果実の割合や小果腐敗病の発生を調査することで、「沖農 P19」の八重山地域における春植え体系への栽培適性を検証する。

［成果の内容・特徴］

１．春植え体系の自然夏実および４月ならびに５月誘導果における果汁糖度は、夏植え体系の自然夏実より低い。また、４月誘導果における果汁糖度の平均値は良食味の基準値（15.3°以上）を満たさない（表１）。

２．春植え株の誘導果における果汁酸度は夏植え株の自然夏実より高い。また、５月および６月誘導果における果汁酸度の平均値は良食味の基準値（0.85％以下）を満たさない（表１）。

３．春植え株の誘導果における糖酸比は夏植え株の自然夏実より低い。また、５月および６月誘導果における糖酸比の平均値は良食味の基準値（19.5 以上）を満たさない（表１）。

４．春植え体系における良食味果実の割合は夏植え体系の自然夏実より低く、誘導果では４割以下となる（表１）。

５．春植え体系における小果腐敗病の発生果率は夏植え体系の自然夏実より高く、誘導果では６割以上となる（表１）。

［成果の活用面・留意点］

１．本成果については、生産者が「沖農 P19」の定植時期を検討する際に活用できる。

２．春植え体系については、100～200g のえい芽を４～６月に定植したものを供試した。

３．春植え体系における誘導については、定植翌年に、エテホン 1,000 倍希釈液に重量比で３％の尿素を加えた溶液 30mL を葉芯へ灌注処理することで行った。また、夏植えの自然夏実については、収穫前々年に定植した夏植え株から収穫した。

４．本成果は、農業研究センター石垣支所において、2021 年 6 月から 2024 年 12 月にかけて健全株から収穫した果実の分析結果を取りまとめたものである。

［具体的データ］

表1　栽培体系および花芽誘導処理時期別での収穫時期および果実品質

栽培体系	花芽誘導処理時期	供試果実数	収穫時期	果実重(g)	果汁糖度(° Brix)	果汁酸度(%)	糖酸比	良食味[z]果実割合(%)	小果腐敗病発生果率(%)
夏植え	自然夏実	100	7/8	1,285 a	17.5 a	0.54 d	34.2 a	91.8 a	23.7 c
春植え	自然夏実	169	8/1	1,098 b	15.8 bc	0.54 d	30.3 a	61.1 b	46.9 b
	4月	74	10/5	1,209 ab	15.1 c	0.75 c	21.5 b	26.1 c	71.0 a
	5月	74	10/24	1,211 ab	15.8 b	0.91 b	18.7 c	37.1 c	67.1 ab
	6月	49	11/18	1,091 b	16.8 a	1.15 a	16.0 d	18.6 c	61.4 ab

注1）表中の値は2021～24年収穫果実における平均値を示す

注2）同列内で同一符号を共有しない処理時期間の値は有意差あり（処理時期を固定効果、調査年をランダム効果とした一般化線形混合モデルにあてはめ、処理時期の効果が有意だった場合、同じ一般化線形混合モデルに基づいてTukey多重比較を行った（$P<0.05$）。））

z；供試果実のうち、良食味果実の基準値（果汁糖度15.3° Brix以上、果汁酸度0.85%以下及び糖酸比19.5以上）を全て満たす果実の割合

［その他］

課題 ID：１）2019 農 003、２）2022 農 012

研究課題名：１）沖縄農業育種基盤技術開発事業

２）生食用パインアップル「沖農 P19」等における高品質安定生産技術の確立

予算区分：１）県単（沖縄農業育種基盤技術開発事業）

２）県単（生食用パインアップル普及促進事業、パインアップル生産拡大事業）

研究期間（事業全体の期間）：2021～2024 年度（2019～2023 年度、2022～2027 年度）

研究担当者：與那覇至、宮里進、東嘉弥真勇人

発表論文等：なし